

モニター通信 No.4

皆さんから寄せられた「モニター通信 11 月分」を紹介します。

～「もったいない-MOTTAINAI」と思うこと(資源節減への取組みや意識について)、他～

モニターから No. 1

日常生活でもったいないなと思うことは、水や電気の無駄使いです。水ならば雨水の利用、風呂の残り湯の洗濯利用等、ちょっとした心掛けで十分節水することができるのですが、全ての人々がこのような意識を持っているとは限りません。また電気にしてもしかり。省エネタイプの電化製品を購入するだけでなく、不要時には主電源を切るなり節約モードで常時使用するなり、要はその人の意識というか生活していく上での心構えが重要なことと思います。

そのためには家庭内の教育や消費者へのPR等、やるべきことはたくさんあるのではないのでしょうか。

モニターから No. 2

私は今回の題目について特に食に関してですが、常日頃より世の中余りにも飽食・美食となり過ぎてしまい、大人から子どもまでが食に対して好き嫌いの意識を出し、嫌いな食べ物は口にせず残してしまう傾向がどこの家庭にもあると思います。私の年代(60歳前後)ではほとんどの家庭で粗食に耐え現在に至っているのも、食の好き嫌いが非常に少ないと聞いております。現代の若者たちに話しても、ただナンセンスと一笑されるだけだと思われそうですが、世界を見回すと、毎日満腹に食べることがままならぬ人々がたくさんいることを考えると、今の日本人の食生活は恵まれ過ぎていと言っても過言ではないと思います。

要は私たち大人たちが何事においても積極的に取り組む必要があると思います。穀物の自給率が低下している日本、自分の足元を見つめ直し誰もが質素な生活スタイルにすることが、今求められていると思います。

モニターから No. 3

講演会「悪徳商法と消費者保護」を受講して

10年以上前にも安彦和子先生のお話を聞いたことがありますが、今回の先生のお話は前回にも増して非常に熱意が伝わってきて感激しました。

「俺、携帯の電話番号変わったんだけど」「社会保険の返金の通知届きましたか」「携帯電話持ってる」等々、あやしげな電話がありましたが、その都度一言で切り抜けました。振り込め詐欺や自宅へ代理人が現金を取りに来るなど、よく高齢者が被害に遭うニュースを聞きます。いくら認知症になっている方ではないかと思っていきましたが、大学教授も悪質な投資で被害に遭ったと聞き驚きました。被害者側にいろいろな事情があると騙されやすいことを知り、自分も注意しなければならぬと思いました。

また先生の裁判の様子など、普段聞くことができない多くのことを教えて頂き、本当に役立ちます。

モニターから No. 4

私をもったいないと思うもの—それは食べずに捨てられていく食物です。今の日本ではスーパー、コンビニ、家庭、レストランなどでたくさんの食べ物がゴミに出されています。生産や製造の現場でも豊作で値崩れしないように、あるいは製品の容器に少し傷がついた、ラベルの印刷がゆがんでいたという理由で、十分食べられるものが大量に廃棄されていると聞きます。これは日本だけのことではなく、先進国は皆同じような状況だし、開発途上国においてもインフラや冷凍・冷蔵設備が整っていないために、生産されたものが傷んでしまう割合が高いと本で読みました。

この豊かな日本でも、時々「餓死」のニュースを聞きます。世界中ではもっともっと多くの人々が飢えているのに、です。しかし、食べられずに捨てられていく食物を減らすことは、複雑な流通過程があるため簡単なことではないそうです。私たちの「商品が豊かで当たり前」という考えも間違っているのかもしれない。

モニターから No. 5

去る10月9日、八千代町の(株)エフピコ関東リサイクル工場を見学しましたが、身近な資源の節約を痛感しました。石油は多くの用途を持ち、生活用品で顕著です。しかし輸入に頼る石油は価格の高騰で不安を隠せません。資源の確保のためリサイクルできるものは積極的にリサイクルし、資源の確保に努める必要があると思います。その思いからリサイクル運動を行っているスーパーマーケット・行政の廃品回収で調べました。

○食品トレイ ○発砲トレイ ○ペットボトル ○ビン類 ○アルミ缶

が実施されていました。しかし実施スーパーは少ないのが現状です。今後は行政機関が積極的に推奨して国民的な運動を展開し、必要量の確保に努める必要があります。

行政機関はゴミ焼却などに大きな働きをされていますが、もう少し工夫して資源の確保に真正面から取り組む必要があると思います。

モニターから No. 6

毎朝、牛乳を飲んでいますが。賞味期限が印刷されていますが、店の人は新しい日付けの物が入荷したら5%値引きして、それでも売れ残った物は廃棄しているそうです。紙パックですが密閉度はしっかりしているので、賞味期限(開封してから何日とか)がよく分からない。

新聞によると、加工食品には鮮度ルールがあるそうですが、食品ロス削除のため鮮度の「3分の1ルール」を早急に緩和する時期に来ています。

モニターから No. 7

もったいないと思うことはずいぶん多くあります。賞味期限が表示されているために、まだ十分に食べられる食品を廃棄処分すること。飼料にする取り組みもあるようですが、まだそのまま食べられる物をもったいないと思います。

また、必要以上に便利だと思われる物もあります。トイレに設置されている手を洗った後の乾燥機。あれば便利なのでつい使ってしまうけど、資源の無駄だと思えます。ハンカチで十分対応できます。震災後一時使用されていなかったが、最近では元通りに使われている所が目立ってきて

います。

自分で意識していることは、スーパーの特売につられて必要以上に買わないこと。これまでだとつい買い過ぎて使いきれなく無駄にしたり、衣料品は値下がり幅につられて買い、一度も着ないでそのままになっているのもあるので、安さに惑わされて衝動買いしないように心がけています。

モニターから No. 8

暮らしのセミナーに参加してからはパック類は捨てずにスーパーに持っていくようになりました。再利用できる資源をゴミ扱いして捨てて焼却してしまう・・・勿体ない。もう着られなくなっている衣類を、いつか着るのではと、ただ溜め込んでいる・・・勿体ない。売り出し商品を安いからと必要以上に買い込んで死蔵品を増やしていく。勿体ない。

最近、私たちに食べられる側のお肉や魚やお野菜等の食物たちの気持ちが気にかかります。「この人に食べられて幸せだ！」そんな食べ方のマナーが忘れられている。双方にとって不幸な勿体ないことと思う。

「勿体ない」は、人にも物にも食べ物に対しても穏やかに優しく接して、お互いが真に生かされる関わり方を忍耐強く工夫し、実行していく心と実技(文化)だと思います。豊かさや便利さや快適さを性急に追求する今の世相とは少し違うように思います。

モニターから No. 9

普段何気なく生活していて「もったいない」と思うことはたくさんあります。そんな私でも何か気軽に取り組めるエコはないかと始めたのは、エコバッグの持参です。家から外出する時は常に小さく降りたたんでバッグの中に入れておき、必要とあらば大変重宝しています。この生活をここ何年か続けております。

こうした一人一人の小さな努力が地球にも環境にもやさしいと思うので、これからも細く長く続けていきたいです。

モニターから No. 10

あらためて考えてみると、どんなに多くのもったいない生活を私たちはしているのかと感じます。衣・食・住で物が溢れた現代社会ですが、本当に使う物は本当に欲しい物は何かと問われると、生き方・暮らし方で価値観、意識が変わってきます。私も変わってきたと思います。

安いから、ちょっと可愛いからと買った衣類、食品は、結局はほとんど出番がないまま埋もれてしまっているのが、我が家の現状。一人一人が本当に要る物だけ、必要な物で生活するようになれば、廃棄される食料、衣類等がどんなにか減少することでしょう。

暮らし方、価値観の意識を変えていかなければと思います。

モニターから No. 11

調べてみると「機会損出」ということを指し示す言葉で「消費削減」(リデュース)「再使用」(リユース)「再生利用」(リサイクル)「尊敬」(リスペクト)の概念を一語で表す言葉が見つからなかったケニアのワンガリ・マータイ女史が唱えて世界に広まった言葉。元は神仏・貴人に対し不都合である、という意味。

我が家の「もったいない運動」

1. 孫からのお上がり・・・シューズは年々足のサイズ大きくなり買い替えるので、払い下げてもらう・・・じじ、ばばが利用
2. 孫の洋服・・・隣の方のお孫さんへ使用してもらう
3. ペットボトル類・発砲スチロール等は、スーパーの集積箱へ
先日の見学会で回収率が2割だと聞いて驚いている。皆さんの協力が必要だ！

モニターから No. 12

“食”に関する“もったいない”が言われ続けていったいどのくらいの年月がたってしまったのだろう。賞味、消費期限ぎりぎりの食品を購入、もしくは無料で提供してもらい、経済的困難な暮らしを強いられている施設などに寄付するNPOもあると聞く。食品衛生上の問題もあるので、大きな動きにはなりにくいようだ。

近い将来“まだ食べられる廃棄食品”の山が、いつしかあつという間になくなる食料危機がやってくるかもしれない。そういうことを念頭に、家庭ではゴミを出さないように工夫することはできる。問題は外食だ。体調や年齢、あるいはダイエットによって多くの方は完食しないのではないだろうか。衛生上の問題でテイクアウトできないなら、食事量を選択できるメニューを企業に提供してもらいたい。経営上の問題も多くあると思うが、“もったいない”の企業努力も大事なのではないだろうか。

モニターから No. 13

元来貧乏性なせいとか、特に意識しなくとも無駄使いしない、使い切るということを自然にやっています。当たり前にもったいない精神がしみついています。食べ物は買い過ぎて腐らせて捨ててしまうようなことがないように計画的に料理し、使い切るようにします。皮なども食べられるものは料理して食べ、生ゴミはコンポストなどで堆肥などにします。衣類などは別なものにリフォームしたり、パッチワークや手芸の材料にしたりタオル類などは雑巾や掃除用のボロ布にしたりして最後の最後まで使いきれものは使い切るようにしています。

昨年の震災で水や電気のありがたさを実感したので、出しっぱなしつけっぱなしがなくなりました。いつ水が使えなくなっても数日は困らないように空ペットボトルに水を汲み置きするようになりました。普段は汲み置きの水を使っていつも新しい水が入っているようにしています。こうすることで出しっぱなしで使うことが減りました。電気もこまめに消すようになりました。皆さんもされていると思いますが、お風呂の水は洗濯や掃除、庭の水撒きに使っています。

モニターから No. 14

通信販売などで送られてくる箱の大きさ、必要の無い程のカatalog、商品案内の__広告の多さ、衣料品に付けられているたくさんのタグ。紙の無駄や受け取る方のゴミを考えてもらえれば、少しは節減になると思います。また、資源節減とは関係ないかもしれませんが、年に何度も同じ道路を掘り返す工事。何をしているか分かりませんが、これらも無駄のひとつでは？

自分自身が気をつけている点としては

- ・野菜など捨てる場所が無いようにすべて使う
- ・多少の破れ、穴などの衣類は繕う、もしくは掃除用に使用する

・賞味・消費期限を少し過ぎても捨てない
などです。

モニターから No. 15

物の無い時代に育ったため「勿体ない」精神旺盛で困っています。今、洋服・シーツ・タオルケット・古布等を思い切って断捨離しているところです。資源ゴミも出しますが、この頃は老人ホーム、バザー等にくらあってもありがたいと言われ、たくさんある時は取りに来て頂いています。少しは役に立つかなと実感でき、ホッとします。いつもため息が出てしまうのは、ゴミ袋。以前はポリバケツやスーパーのポリ袋利用で、衛生上など様々な問題がありました。最近では、我が家の近くのゴミ置場はとてもきれいになりました。しかし、50枚入りゴミ袋のズッシリとした重さと500円近いコストに考え込んでしまいます。ゴミのためのゴミを各家庭でこんなにも増やしているのですね。

便利さって、とても無駄でお金の掛かることなのですね。もったいないです。しかし「若い人にはあまり言わない方がいいわよ」とか言われると複雑です。こういった教育も必要ではないでしょうか。

モニターから No. 16

もったいないと思う事は、身の回りに関しても本当にたくさんあると思います。食べ物に関して言うと、必ず食品には賞味期限や消費期限というものが表示されています。コンビニやスーパー等では、まだまだおいしく食べることができる食品でも、賞味期限を過ぎてしまうと捨ててしまうということをよく聞きます。夏の時期はともかくも、冬は消費期限ですら1~2日過ぎてしまっても、変な臭いがしていなかったり味見をしてよほど変化がなければ、食べてしまうこともあります。賞味期限とは、その食べ物がおいしくいただける期限なので、食べられるものはできるだけ、期限を過ぎても味に変化がなければ大丈夫だと思っています。

そもそも余計に買い過ぎることが問題なのだと思いますが、これからはストックを確認して購入することが、物を捨てない精神に通ずることなので、今後少しずつ心がけていきたいと思っています。

モニターから No. 17

もったいないと思っていることは、これまでにマスコミでも取り上げられ改善傾向にあります。飽食時代といわれレストランで注文して余った場合、衛生上致し方がないとのことですが大抵の場合持ち帰れません。無理して食する場合がありますが、高齢化が進む中、何とかサイズを変えるなど必要量を注文できないのでしょうか。それと商店で買い物をした時、過剰包装もまだ気になります。用途によって簡易化をもっと推進してほしいと思っています。スーパーでレジ袋がなくなってきたのは、よかったです。また、日常生活においては、テレビ、電灯など電気機器のつけっぱなしや水道水の出っぱなしに気をつけたり、暖房・冷房の温度設定に加減していません。

限られた資源やエネルギー消費の節約に、生活の知恵を発揮したいと考えています。

モニターから No. 18

深夜電力を利用してご飯を炊く、洗濯をする。夜の11時～浅野7時までの時間帯、タイマーを使い1/3の電気料金を利用する。水道代・電気代など記録をしておき、前年度・前月と比較することにより意識が高まり、資源節約につながると思って実践しています。

モニターから No. 19

冬の鍋料理の季節になると隣の家の園芸家の家で、朝6時頃から葱払えの作業が始まる。一日中葱の汁の臭いに悩まされる。10本前後を白い所の大きさと長さを揃えてきちんとビニールに入れて、売り物として大きさが揃っていないのはゴミとして捨てる。それがモッタイナイで、時々気が向いた時に下さる人參もそうだ。揃っていないで少し割れているだけだ。売り物にならないといって処分する。同じ値段でサービスでつければ、貰いたい人は多いと40年～50年代まで___が全く消え、私が子ども時代「必要なだけ買う」売る側も買う側も_____も納得していた。

この間下町のお花茶屋でそういう店を見つけて感激した。モッタイナイが世界語になったのを機会に、コンビニ、レストランで捨てられる食品の量を、食べ残しは家に持ち帰り運動でも興しましょうか？日本人に気付かせてくれたマータイさんの__に報いるために・・・。

モニターから No. 20

資源(水道代)節減に雨水(地下タンク)約2000ℓ。グリーンカーテンのおかげで、昨年も今年も扇風機・エアコンいらず、うちわで過ごすことができました。今年はゴーヤ(3本)311個、ナス(4本)253個、ピーマン(3本)945個、その他ラッキョ・ミョーガ、食用菊、生花(菊)。庭の水撒きは全て地下タンクの雨水でした。

節約は誰でもできることが多い。無駄な冷房・暖房機のスイッチの切り忘れ、無駄なネオン灯や看板灯。その他節約についてはもっと勉強して、体験します。

モニターから No. 21

花火大会などでは、各方面から多くの観客を呼び寄せることができるのだから、霞ヶ浦という大きな観光資源を持ちながら全くと言っていいほど観光客が少ないというのは、とてももったいない！という思いです。桜川の桜も見事だし、土浦が誇れるものはすぐそばにたくさんあると思う。

しっかり見直しをして、どんどん多くの人に来て下さって、活気のある町になってくれればいいなあと思っています。

モニターから No. 22

もったいないといつも思うこと。利用しているスポーツクラブのロッカールームで、ひげを剃ったり歯を磨いている会員が、そのひげを剃っている時に終わるまで水道の水を出しっぱなしにしているのを、しょっちゅう見掛ける。その間、一回も水を利用しないのである。なぜあのようなことをするのだろう。一度も利用されることなく捨てられる真水、土浦市はその真水をつくるためにどんなに費用をかけているか時間をかけているか。スポーツクラブはその水道量を請求され、会員の会費から支払われるのである。あの浪費者は家庭でも同じようなことをしているのだろうか。

スーパーマーケットなどで弁当を買うときに、割り箸を何の考えもなく受け取る人がたくさんいる。家で食べるなら自分の箸を使えばいいではないか。日本人で、自分の箸を持たない者はいないであろう。マイ箸を持ち歩く人さえいるという時代に、タダであるはずのない箸を要求するとは。スーパーマーケットはその箸の仕入に代金を払い、その箸代はその他の商品の値段に反映されるのである。スーパーマーケットもタダで渡さずに、レジ袋と同じく代金をその受け取る本人に請求すべきである。浪費家の箸代の一部など負担するのはごめんである。

モニターから No. 23

ペットボトル・ビン・缶・トレー・牛乳パック・電池 etc、毎日のように出る再利用されるゴミを私は意識して分別し、他人にも勧めている。分別ゴミ(資源ゴミ)の回収は、どの自治体でも取組みの違いはあるが実施している。でもその回収物がどこの再処理場で処理され再利用(何に変わってるのか)されているか、あまり知られていないので知りたいと思っている。

また、原発事故で電力不足なのにかかわらず(エコをうたっているが)全自動洗濯機などの普及。また世界の木材の伐採で地球温暖化になっていく(ほかにも理由があるが)のに、紙おむつの普及。昔の子育てには考えられない時代になった。便利な生活はいろいろな経済の発展を産むのであろうが、資源節減を考えると複雑な気持ちである。

モニターから No. 24

「もったいない」ということで最も関心があるのが、食品のロスである。業界には、賞味期限1/3ルールというのがあり、年間1500億円を超える食品がメーカーに返品されているという。返品されたものは廃棄されているのだから、どれだけ「もったいない」ことか。

私たち消費者は「過剰品質」を要求することなく「つつましい」ルールを強く意識する必要があるのではないか。有限な資源を大切に使う心構えで、美しい地球を守ろう。

モニターから No. 25

「もったいない」資源節減への取り組みは、日常の生活で小さいながらもいろいろやっていますが、20年来継続してやっていることは生ゴミをたい肥化することです。生ゴミを燃やすには多大なエネルギーを消費しますので、少しでも環境にやさしく、と考え家庭菜園をやっておりますので、市役所の補助金でコンポストを購入し生ゴミはすべて有機肥料として還元しています。

環境にやさしい生活が資源節減への取り組みと考え心掛けています。